

2010年(平成22年)11月14日 日曜日

不妊と避妊の情報学ぶ 徳島市で母と娘の健康講座



不妊と避妊の最新情報を学んだ「母と娘の健康講座」徳島市の新開放会館

を回避する最終手段、緊急避妊法について解説。国内では承認されていない緊急避妊ピルの有用性を示した後、「避妊は男任せにしないこと」と結んだ。

不妊と避妊をテーマにした市民公開講座「母と娘の健康講座」(日本生殖医学会、徳島新聞社など主催)が13日、徳島市内の新開放会館であった。医師3人が講演し、約100人が性感症と不妊の関係や子宮頸がんワクチンの効果などについて学んだ。

奇原裕・徳島大学病院長の開会あいさつに続き、金山博臣・徳島大学病院泌尿器科教授、宮城悦子・横浜国立大学附属病院化学療法センター長、北村邦夫・日本家族計画協会家族計画研究センター所長の3氏がそれぞれ講演した。

金山氏はクラミジアなどの性感症に女性が感染すると卵管不妊などにつながることを報告。宮城氏は子宮頸がんワクチンについて「接種による予防率は約7割。残り3割は検診を受けてカバーしてほしい」と話した。

北村氏は望まない妊娠